

必ず起こる地震への対策を問う

西下 敦基（市民ネット）



東海地域での今後30年以内の震度6弱以上の地震発生確率は約70%。喫緊の課題と考え、質問した。

Q 地震発生時のトイレの対応は。A 発災から3日分の避難者のトイレの確保に向け、仮設・簡易・携帯トイレの備蓄を計画的に進めている。

Q 近隣市で導入されている災害用バルクと非常用LPガス発電機およびガソリンとプロパンガスで発電できるハイブリッド型自動発電装置の各地区への配備・導入について伺う。

A LPガスバルク貯蔵施設については、公共施設に設置する計画はないが、災害時の活用方法など研究をしていきたい。ハイブリッド型発電機についても研究し、導入を検討していきたい。

Q 屋根を貸すだけで、工場や店舗が初期負担なしで太陽光発電を使える新サービスを中部電力が始め、災害時の非常電源になるほか電気料金が安くなる可能性もあるとされているが、小中学校等の施

設への導入はどうか。

A 小中学校施設は新電力に切り替えたところであることや、老朽化している校舎の問題など課題があり、実施可能な施設の有無について調査する。

Q 隣所で助け合う「近助」の考えを取り入れた防災の推進の検討は。

A 普段から隣人と声をかけ合い助け合う地域づくりは防災にとって重要であり、隣近所同士でグループをつくり見守り、助け合う取組みを行っている防災会もあり、参考にして情報発信・啓発をしていく。

まちの駅指定で観光の活性化を

落合 良子（無所属）



茶業に貢献した関口隆吉像の建立が決定し、予算に事業費が計上された。赤レンガ倉庫はお茶の菊川や静岡を象徴する唯一残った産業歴史建築物であり、菊川茶の歴史を伝える重要な建物として平成26年、国登録文化財に指定。地域の茶業を支え続けた赤レンガ倉庫と関口隆吉像との連携活用は、市民の文化教育に貢献できる資産である。

Q インター前と駅周辺は市の顔である。インター前市有地と赤レンガ倉庫をまちの駅指定の考えは。

A インター前市有地の将来的な活用方法は商工会が継続的に研究を続けている。赤レンガ倉庫はまちの駅指定をせずとも、おもてなし拠点として活用されている。

Q 赤レンガ倉庫は関口隆吉像とともに市のシンボルに成りうる貴重な財産ではないか。

A 明治中期建造のお茶の歴史に関連する数少ない建物と認識している。

Q 赤レンガ倉庫は、貴重な歴史的財産である。市の支援は。

A 文化保護法の規定では所有者が管理をすることになっており、管理に係る支援は考えていないが、教育委員会として、できる範囲の協力はする。

Q 賑わい創出事業943万円の内容は。

A 賑わい事業創出業務委託料877万6000円、東館のパンフレット作製に30万円、賑わいづくり研究会の委員の報酬36万円等である。

※「まちの駅」地域情報や日常的な賑わい創出、人と人との交流拠点。



簡易トイレ組立のようす



国登録文化財の赤レンガ倉庫